

序章 人口減少の見通しとその影響

本章では、第1節で我が国の人口減少の見通しを示した後、第2節では人口減少がもたらす影響と2014（平成26）年12月27日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」が目指す将来の方向性について説明していく。

第1節 人口減少の見通し

（これまで増加を続けてきた我が国の人口は、一転して減少していく見通し）

我が国の人口の推移を長期的に示したものが、**図表序-1-1**である。これを見ると、我が国の人口は19世紀半ば以降に急増しているのがわかる。江戸時代後半の人口は3,000万人程度で安定していたが、明治に入ると急激な人口増加が始まった。増加はほぼ一貫して続き、1967（昭和42）年には1億人を突破、2008（平成20）年には1億2,808万人とピークに達した。しかし、その後は減少局面に入っており、今後は一転して人口減少社会へ突入し、我が国の人口は急勾配の下り坂を降りていくことが見込まれている。

図表序-1-1 長期的な我が国の人口推移

